

環境ビジョン 1

多様な生態系と共生するまち

わたしたちは、その地域の風土や心身ともに健康的な暮らしを営むために恩恵を与えてくれる多様な自然生態系の一員として存在しています。しかし、わたしたち人間の身勝手な自然破壊による影響は、今や地球上のあらゆる生物多様性だけにとどまらず、生命の危機というところにまで議論が及ぶようになりました。

多様な生態系を育み、二酸化炭素の吸収や水源涵養などの公益的機能としてだけでなく、地域の文化や風土、産業発展の基礎として、あらゆる生命の源である自然環境を保護し、維持・保全しなければならないという意識は世界中で高まり、具体的な活動や研究、開発等が進められています。

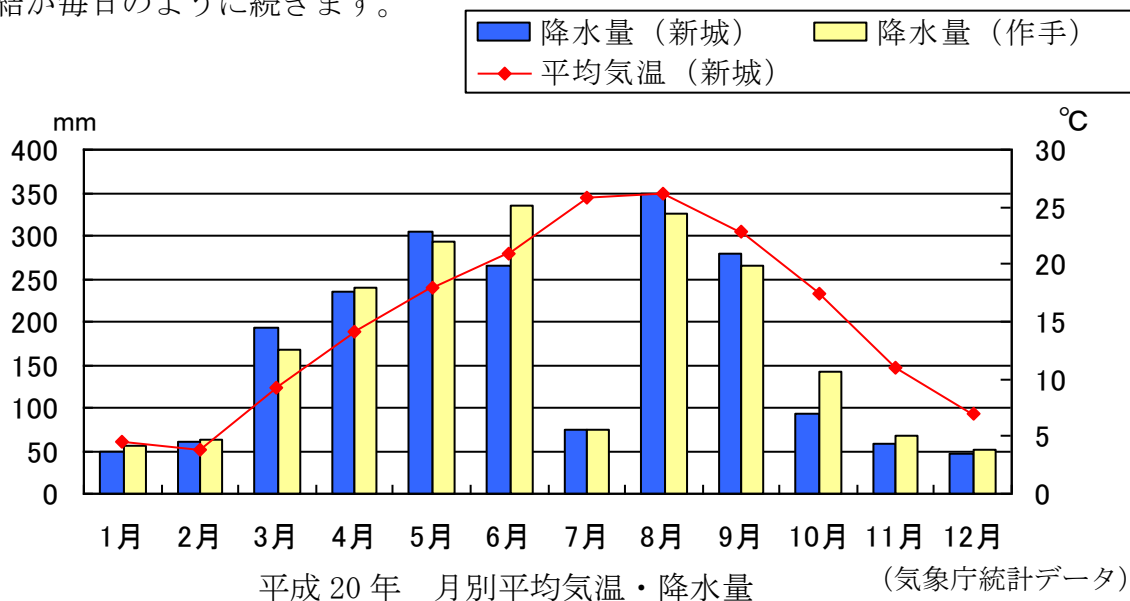
本市には、幸いにもまだ、多種多様な野生生物が生息する豊かな自然環境が市全域にわたり存在しています。

わたしたちは、自然環境を大切にすることを育み、多様な生態系を維持・保全しながらも、地域資源を有効に活用する『多様な生態系と共生するまち』を創造し、将来世代に引き継いでいきます。

【自然環境の把握】

1 気象

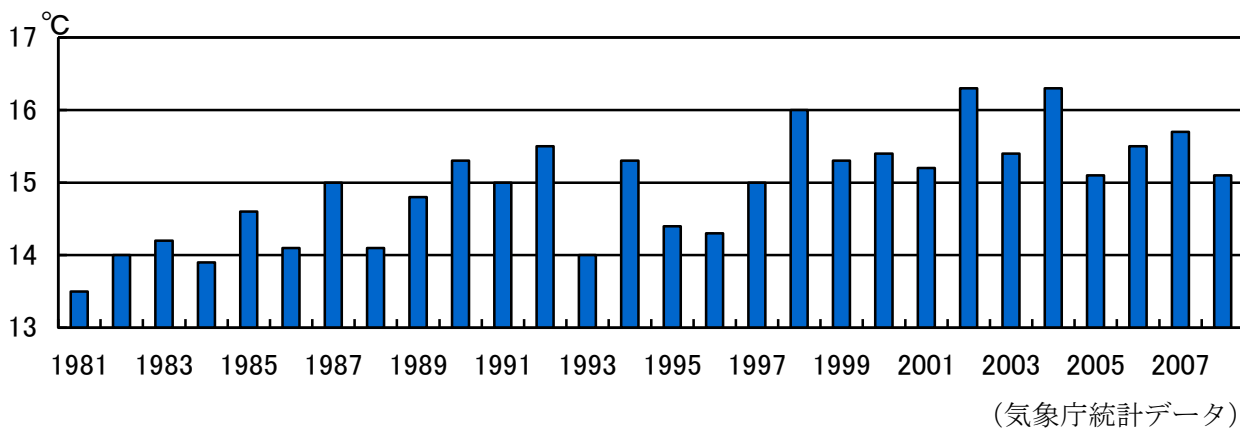
本市は、新城・鳳来地区と作手地区との市域高低差が約500mあります。豊川沿いに位置する新城・鳳来地区の年平均気温は約15℃と比較的暖かな地域ですが、作手地区になると約12℃となり、市域内で2～3℃の気温差になります。また、総雨量も気温と同様に市域に差があります。降雪は、豊川沿いに位置する地域では毎年12月から3月までに数回記録されますが、積雪はほとんどありません。作手地区になると、冬場は積雪や道路の凍結が毎日のように続きます。



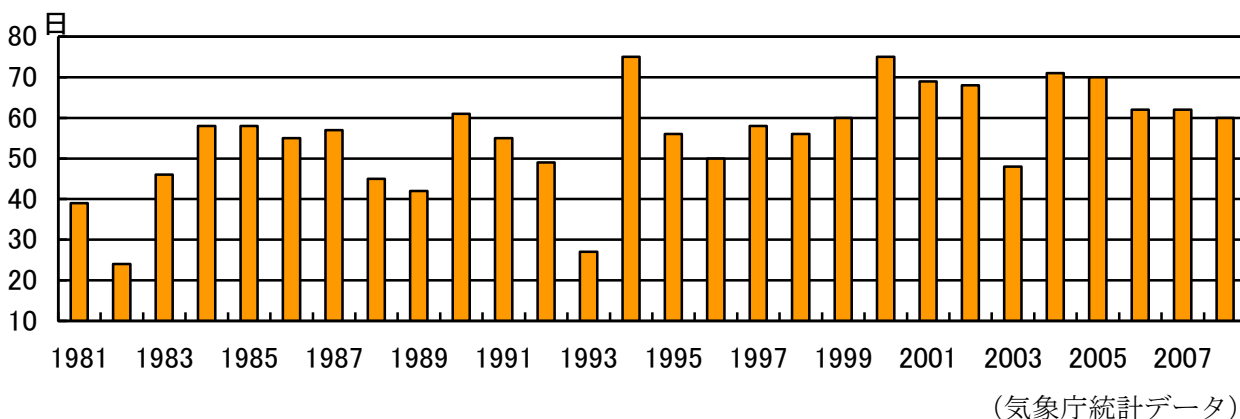
1981年から2008年までの28年間のデータを比較すると、年平均気温は上がったたり下がったりをくり返しながらも徐々に気温が上昇傾向にあるのがわかります。特に1997年以降、年平均気温が15℃を下回ることはありません。

また、最高気温30℃以上の「真夏日」日数、最低気温0℃未満の日数においては、直近の10年間と1981～1990年の10年間とを比較してみても、温暖化傾向にあることがわかります。

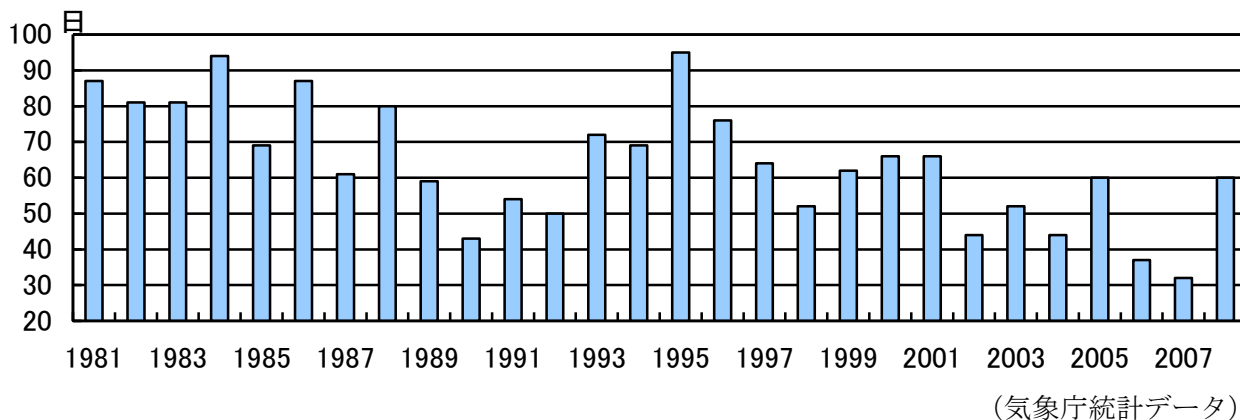
【年平均気温の推移】



【最高気温30℃以上の日数】



【最低気温0℃未満の日数】



※観測点は、2002年以前は旧鳳来町長篠地内にありました。現在は、新城市富沢地内に移設されています。

2 地形・地質

段戸高原を源とする豊川（寒狭川）と宇連ダムを起点とする宇連川が鳳来寺山の東西を挟むように流れています。

この2河川が、長篠の戦いの中心となった長篠城址の下で合流し、豊川本流となり三河湾へと注がれます。

この豊川に沿って日本最長の断層帯「中央構造線」が縦走り、地形と地質を豊川本流右岸の内帯と左岸の外帯に分けています。内帯側の地質は、花崗岩類・領家変成岩類と堆積岩、火山岩類が分布しています。

外帯の地質は、主に緑色片岩や黒色片岩からなる三波川帯で構成されています。これらは、平坦地が洪積層・沖積層となっています。



作手地区 長の山湿原

作手地区は床土が水をにがさない粘土であること、平らな地形で湧き水があり、夏の気温が低く雨の多い気候であることなどの条件から6か所の湿原が点在しています。作手の湿原は、愛知県で唯一、土の酸素が少なく酸性が強いため植物が腐らずに炭のようになるでい炭のある湿原であることから「日本の重要湿地500」に選定されています。

3 植生

本市の行政面積は、83.5%が森林で、尾根沿いを中心に在来の常緑広葉樹林が点在しているものの、森林面積の80%以上はスギやヒノキの人工林となっています。

新城・鳳来地域は、暖地系の植物の多い地域で、特に鳳来寺山は、ホソバシャクナゲの自生地として全国的にも有名です。また、ツガ群落の他、亜高木のヤブツバキ、アラカシ、ツクバネガシや低木層のアオキなどが常緑広葉樹林の群落をつくり、シダ植物以上の高等植物が800余种確認されています。天然のよい植物見本園として、国の名勝および天然記念物に指定されています。

豊川沿いにおいても、比較的自然植生が多く種類も豊富です。特に桜淵公園の蜂の巣岩付近は、石灰岩を含む地質で構成されており、クモノスシダ、ツルデンダなど石灰岩特有の植物が見られます。

作手湿原には、全国的に見ても絶滅の危険性のあるサギソウ、トキソウ、サワラン、ヤチスギランや県内でもこの地域でしか見られないサギスゲ、ミタケスゲ、ヌマクロボスゲ、ツルカミカワスゲ、ミヤマナルコスゲなどの貴重なものがみられます。

4 動物

本市は、豊川・矢作川にそそぐ支流小河川とその周辺の農地および外縁部の山地などほぼ市域全体が豊かな自然環境に恵まれており、多くの動物が生息しています。

種 類	解 説
哺乳類	雁峰山から本宮山にかけての北部山地と東部および南部の山地を中心にニホンザルをはじめイノシシ、タヌキ、ニホンリス、ノウサギなどの生息が見られる。また、本宮山を中心とする地域にホンシュウシカ（ニホンジカ）の生息地、山地と一部の社寺林にはムササビの生息が確認されている。
鳥類	豊川やそれにそそぐ小河川を中心に市域外縁部の山地まで全域にわたり多くの野鳥が生息している。豊川には、オシドリや「水辺の宝石」ともいわれるカワセミが生息しており、桜淵公園だけでも年間を通して約80種の野鳥が確認されている。また、鳳来寺山や作手地区の山々には「仏法僧」と聞こえる鳴き声で有名なコノハズクの生息が確認されている。
魚類	天然記念物ネコギギをはじめ、ウナギ、アユ、オイカワ、ウグイ、コイ、ホトケドジョウ、メダカなどの生息が確認されている。しかし、市内の沼や池には外来種ブラックバスやブルーギルなどが繁殖していることから在来種の生息が危ぶまれている。
昆虫類	本市の様々な植生により多くの種類が確認されている。1983年（昭和58年）3月に市の天然記念物に指定されているヒメハルゼミをはじめ多くのセミ類やトンボ類、チョウ類、カブトムシ、ミヤマクワガタ、ノコギリクワガタなどの甲虫類やタガメ、ヒメボタルなど生息するとされている。しかし、スギやヒノキの植林地が広がり、シイ・カシ林に生息するとされるヒメハルゼミの確認が難しくなっているとともに、その他の昆虫類も開発や農薬などの影響を受け確認事例が減少傾向にある。また、外来種による日本固有の生態系への影響が懸念されている。
爬虫類	シマヘビ、ジムグリ、タカチホヘビ、アオダイショウ、ヤマカガシ、マムシなどのヘビ類やニホンイシガメ、ニホンカナヘビ、ニホントカゲが確認されている。最近では、ペットとして飼われていた外来種が巨大化などにより自然に放たれることにより、在来種の生態系への影響だけでなく、人への危害も懸念されている。
両生類	山地の樹上で昆虫やクモ類などを食べ、単独で生活する日本固有のモリアオガエル、ヒキガエル、アマガエル、トノサマガエルなどのカエル類やイモリが確認されている。モリアオガエルは、県内でも特にこの地域での生息が確認できる。



1 保全と創出

●豊かな自然の保全

【生命の源としての自然の確保】、【生物生息空間の保全・維持】

●身近な自然の創出

【原風景の回復】

《四谷の千枚田の特徴》

千枚田のある四谷地区は鞍掛山（標高883メートル）の南西斜面に広がる山間集落で、石積みの棚田は、標高220メートル付近から鞍掛山頂に向かって標高430メートル付近まで広がっており、その標高差は約210メートルにもなります。また、棚田は、鞍掛山を水源に持ち、四谷の千枚田を囲むように山あい大代、大林、身平橋、田の口の4集落で構成されています。

鞍掛山の中腹からこんこんと湧き出てくる水は、毎秒20リットルで枯れることも無く、昔から大雨が降っても濁らず、生活排水の混入もなく、石積み水路と透明感のある清水が三筋の沢として流れ、棚田を潤しています。

傾斜地山林を苦勞して開墾し、構築された石積みは、鞍掛山の転石や山崩れで流出してきた石だけを積んだ棚田であり、また石積みの土地に家屋も建築しており、独特の石垣風景を呈しています。これらの自然石による石積み棚田、鞍掛山、豊富な水が正面から一望できる素晴らしい光景は訪れる人の心を和ませています。



《千枚田の魅力・能力》

山の傾斜地に作られた千枚田は、そのあぜや石垣によって大雨の際の土壌浸食を防ぎ、またその保水機能によって調整池の役割を果たし、水が一気に流水するのを抑える災害防止機能を備えています。

山の斜面や丘陵地に段々と折り重なり、その曲線美を見せる四季折々の棚田の風景の美しさは、はるか太古の昔から日本の原風景として日本人の心に潤いとやすらぎを与えて来ました。

「四谷の千枚田」は大雨でも濁らない湧き水を持ち、おいしい米（棚田米）を生み、四季折々に多彩な表情を見せてくれて奥深い魅力を秘めています。常に水をたたえて豊かな緑を育む田は、様々な動植物にも生息空間を提供しています。「四谷の千枚田」ではモリアオガエルの卵も見られます。

《鞍掛山麓千枚田保存会》

千枚田の保存活動を通じて、農業労働力の確保と農業振興および地域の活性化を図るため組織されたグループです。活動内容としては耕作放棄地の解消に取り組むとともに「田植え体験」「稲刈り体験」「生き物観察会」など都市と農村の交流も図っています。この他にも水路、里山の環境整備を行い、美化活動にも取り組んでいます。

「四谷の千枚田だより」を毎月発行しています。

◇鞍掛山麓千枚田保存会（平成20年度活動実績）

実施日	活動内容
4月4日(土)	横浜ゴム新入社員研修 (ふれあい広場環境整備及び千枚田概要説明) 協力：連谷お助け隊
5月10日(土)	役員会
5月20日(水)	三ヶ日中学校の宿泊体験学習（田植え体験）
5月24日(日)	総会 於：連合会館
5月30日(土)	草刈作業
6月7日(日)	お田植え感謝祭「千枚田を灯そう」事業への協力 主催：連谷お助け隊
7月13日(月)	連谷お助け隊地域環境整備活動への協力
7月25日(金)	役員会
9月7日(日)	草刈作業
10月7日(水)	アストラゼネカ社社会貢献活動受け入れ (AZ社員105名、地元35名、鳳来総合支所6名) 協力：連谷お助け隊
10月16日～18日	第14回全国棚田（千枚田）サミット参加 於：長崎県長崎市、雲仙市
10月25日(日)	棚田米出荷
11月5日(木)	横浜ゴム 蕁販売事業（蕁の出荷）
11月7日～9日	「農林水産フェア」参加 於：名古屋市・吹上ホール
11月18日～19日	ふるさと水と土指導員全国研修会受講
11月22日～23日	第3回東京棚田フェスティバル参加
1月30日(金)	役員会

◇名古屋北ロータリークラブ（養護施設慈友学園招待）千枚田体験事業の受け入れ

協力：連谷お助け隊

日時	活動内容
5月18日(月)	田植え体験、田舎おもしろ体験
8月9日(日)	案山子づくり
9月7日(日)	稲刈り、田舎おもしろ体験

◇豊橋調理製菓専門学校千枚田活動事業（育農授業）

実施日	活動内容
5月15日(金)	田植え
6月5日(金)	生育調査
6月26日(金)	田の草取り
8月9日(日)	生息調査
8月21日(金)	案山子づくり
9月11日(金)	稲刈り、五平餅づくり
10月9日(金)	脱穀・感謝祭



◇三河の山里ツーリズム事業の受け入れ 主催：愛知県企画部地域振興課

実施日	活動内容
5月17日(日)	田植え
7月5日(日)	田の草取り
9月13日(日)	稲刈り



《地域の活動》

「田吾作」

耕作者の高齢化などにより棚田の耕作ができなくなった農地を借りて、減農薬、有機栽培での耕作に極力努め、耕作放棄地の解消を図っています。ここで収穫したもち米を活用して都市住民を交え、棚田で昔ながらの杵と石臼で餅つき大会を行うなど都市と農村の交流も図っています。

「連谷お助け隊」

地区内の若者有志23名が中心となり、平成17年に開催された「全国棚田（千枚田）サミット」の支援組織として発足し、その後、千枚田保存会、田吾作、直売所などと協力しながら、環境景観整備、耕作支援、地域活性化活動、都市農村交流活動など地域への幅広い事業をサポートしています。

「連谷小学校」

地元の連谷小学校は複式学級の児童数10名程の小さな学校ですが、地域の自然や社会を生かした全校活動として総合的な学習の時間を使い、「四谷の千枚田」で田おこしから脱穀まで稲作の1年を通じての作業を「学校田」として全校で行い、平成19年度からは『千枚田で生きる』というテーマで食育も大きく位置づけて取り組み、地域の方と一緒に活動しています。

【自然に配慮したまちなみ景観・公園づくり】

《子ども向け景観まちづくり教室》（都市計画課）

「普段、何気なく見ているまちの風景。見慣れたまちの景色も、少し視点を変えて見るといろいろ面白いものが見えてくる。」をテーマに小学生を対象とした景観教室を新城まちなみ情報センターで開きました。

会場の情報センターから新城駅までの約200mの区間を歩き、気になる場所や景色をデジタルカメラで撮影し、それぞれ写した写真を発表しました。

電線にとまるツバメや、ロボットの顔に見える空き缶ボックスなど、大人では思いもよらないユニークな視点で、まちなみの景色が写されていました。

日 時：平成20年8月6日（水）

午前9時から午前11時30分

集 合：新城まちなみ情報センター3階会議室

対 象：小学校3年生～6年生

参加者：9名



《景観セミナー》（都市計画課）

愛知県をはじめ、多くの自治体の景観づくりに幅広く関わってこられた立場から、様々な事例を挙げて説明され、良好な景観の形成と保全には、駄目な景観に対する認識を共有し、景観はみんなのものであるという共通意識を持つことが大切であり、新しくできた景観法を活用して、建物の高さや色の規制、無秩序な看板設置の抑制、緑化の推進などのルールづくりを進める必要性が語られました。

日 時：平成20年8月19日（火）午後6時から

場 所：市民体育館 第1会議室

講 師：名古屋市立大学大学院 芸術工学研究科
教授 瀬口哲夫（工学博士）

参加者：42名



《新町地区まちづくり協議会》

主な平成20年度事業概要

①街路樹「陽光桜」・ひだまりパークの管理

陽光桜の手入れを行うとともに新桜通りの清掃を定期的実施し美化に努めた。ひだまりパークの管理においては、パーゴラ・フェンスの防腐剤塗布のほか、案山子、イルミネーション、門松などを飾り付け四季の演出を行いました。

②まちなか景観向上のための活動

花のまちづくりの実践として花ざかりコンクール、ガーデニング講習会を開催しました。また、ガーデニング講習会で作った寄せ植えを新しくなった東新町駅舎に設置しました。

新桜通りでは、フラワーポットを継続して道路へ設置しました。新桜通りフェスタのイベントとして「花灯路」を開催しました。食彩園「やどかり」では、コスモス、マリーゴールドを栽培しました。平成21年度に予定の「花迷路」に向けてワールドフラワーの種まきも行いました。

③「新桜通りフェスタ」の開催

平成21年3月29日（日）新桜通りを歩行者天国にした「第5回新桜通りフェスタ」を開催しました。満開の陽光桜の下、吹奏楽や和太鼓など様々なパフォーマンスが繰り広げられ、電気自動車の展示、商工会によるテント市やJA愛知東の野菜市、フリーマーケットも開かれるなど大勢の人々で賑わいました。

④まちづくり憲章の周知

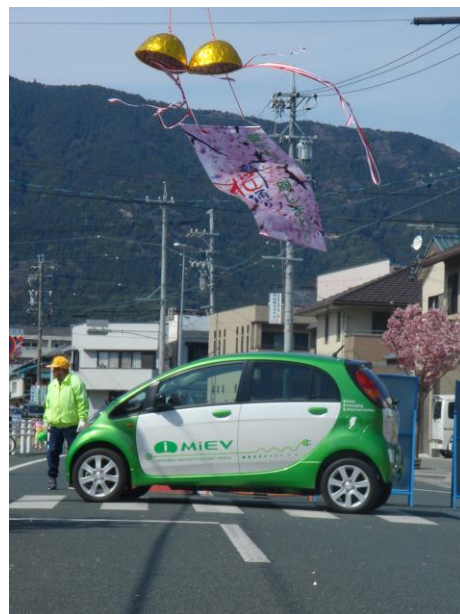
平成20年7月26日（土）商工会主催の新桜通り夜店に参加し、まちづくり憲章が書かれた「エコうちわ」を来場者に配り周知を図りました。

⑤協議会活動の輪を広げる

多くの人にまちづくり活動を理解し、参加してもらえるよう、地元有志による改善活動により清流を取り戻した静岡県清水町の柿田川公園を視察しました。また、岐阜市加納まちづくり会が視察に訪れ活動説明などを行いました。

⑥その他

第18回全国花のまちづくりコンクール
団体部門入選（同推進協議会主催）



2 ふれあい

●自然に親しむ

【自然に親しむ心の醸成】

子どもの頃から日常的に自然に親しみ、ふれあう機会をつくることで、自然を大切にする心を醸成します。

《園児がアユの稚魚放流》

平成20年5月23日（水）、庭野地区の豊川左岸で、新城幼稚園の年中と年長園児100人がアユの稚魚を放流しました。

園児たちは足で浅瀬に入ると、バケツの中の魚を川へ放し、魚が元気に泳ぎだす姿に大きな歓声をあげていました。

